園やご家庭での読み聞かせにお役立てください。

へんしん！めいさくポスター

5月のおはなし

あかずきん

あるところに、いつも赤いずきんをかぶっているので、「あかずきん」と呼ばれている女の子がいました。

ある日、お母さんが言いました。

「病気のおばあさんのお見舞いに、行って来てちょうだい。」

「はあい。」

あかずきんは、おばあさんの家に出掛けました。

あかずきんが森を歩いていると、おおかみがやって来ました。

「ねえねえ、あかずきん、どこに行くんだい？」

あかずきんは、

「おばあさんのお見舞いに行くの。」

「へえ。じゃあ、そこの花畑に咲いている花を摘んでいくといいよ。きっとおばあさんが喜ぶよ。」

「それはいいね。おおかみさん、ありがとう。」

あかずきんが花を摘んでいる隙に、おおかみはこっそりと、おばあさんの家へ向かいました。

おばあさんの家に着いたおおかみは、ガブリ！　なんと、おばあさんを飲み込んでしまいました。そしておばあさんになりすまして、ベッドに潜り込んだのです。

しばらくすると、ドアをたたく音がしました。おおかみは、おばあさんの声をまねて言いました。

「あかずきんや、入っておいで。」

「あれ、おばあさんの耳は、そんなに大きかったかな？」

「お前の声をよく聞くためだよ。」

「おばあさんの目は、そんなに大きかったっけ？」

「お前の顔をしっかり見るためさ。」

「おばあさんの口は、そんなに大きかったかな…？」

「それはね…。」

おおかみは、ガバッとベッドから起き上がり、

「お前を食べるためさ！」

あかずきんもガブリと飲み込んでしまいました！

おなかがいっぱいになったおおかみは、ベッドでグウグウと眠ってしまいました。

大きないびきを聞きつけて、猟師がおばあさんの家にやって来ました。

おおかみの膨らんだおなかを見て、

「おおかみめ、さてはおばあさんを丸飲みしたな。」

はさみを取り出して、おなかをジョキジョキ。するとどうでしょう。あかずきんとおばあさんが、出て来たではありませんか。

「ああ、よかった！　猟師さん、どうもありがとう！」

あかずきんとおばあさんと猟師は、おおかみのおなかに石を詰めました。目が覚めたおおかみは、おなかが重くてフラフラフラ…。その場で倒れてしまいました。

（おしまい）

文／ほそだ あき

Gakken